



洋書輸入協会会報

Vol. 31 No. 9 (通巻364号) 1997年9月

理事会報告

9月16日(火)

(一) 理事交代の件

極東書店社長・内藤理事の同社社長退任に伴い新たに菅野新社長が理事に就任し紹介された。

(二) 収支報告

7・8月分収支について総務委員長より報告があり承認した。

(二) 理事長提案

特別委員会の答申に基づき洋書輸入協会会員であるメリットを増強する施策の一環として、先ず共同物流による物流コストの逓減実行案が理事長より提示された。

次回の理事会で更に詳細な内容が発表される予定。

(四) 広報・渉外委員会報告

戎井委員長より今期は11月と来年2月頃セミナーを開催したい。

著作権、ピックアップ、改正外為法等をテーマとしたい。

(五) 神戸 ELT 展示会

上記展示会への参加案内が会員より提出され、事業委員会で詳細を検討した上で後日理事会に報告することとした。

(六) 加算税制度

課税対象商品の無申告や過少申告に対する加算税の徴収が10月1日より制度化されるため各会員の今後の通関にはこの点に留意が必要なので、税関の説明資料を今月中に各会員に配布したい旨総務副委員長より報告があった。

海外ニュース

アップダイクのオンライン・デビュー

ピューリッツァー賞受賞作家、ジョン・アップダイクは、先週オンライン上での著作活動にデビューした。これはアップダイクが最初の章を書いて、共同執筆のかたちをとるミステリー小説で、オンライン書店 Amazon.com により独占的に提供される。

“MURDER MAKES THE MAGAZINE” (殺人が雑誌を作る) と題された物語は、Amazon.com 提供のコンテストでもある。今後44日間、同社ホームページの訪問者は、この物語の続きを書くことができる。Amazonの編集者が毎日あたらしい応募作を選び、最終的にアップダイクがすべての要因をまとめあげたストーリーを書き上げることになっている。毎日選ばれる受賞者には賞金として1,000ドルが授与され、最終日に大賞として10万ドルを受け取るチャンスも与えられる。アップダイクにとって、この小説はサイバースペースにおける第一作であるばかりでなく、初めてのミステリー小説でもある。

このコンテストはまた、アップダイクの18作目の小説で今秋 KNOPF 社より出版予定の “TOWARD THE END OF TIME” のプロモーションにもなっている。Amazonの広報担当者 Kay Dangaard 氏は、アップダイクのような地位の作家がオンライン上で小説を執筆するのはこれが初めてだろうと語った。アップダイク氏が受け取る報酬は僅かなものである。

【PUBLISHE WEEKLY/AUGUST 4, 1997 より】

目次

理事会報告	1	うちの会社	3	文化厚生委員会だより	4
海外ニュース	1	総代理店のご案内	3	草木は語る	5
パソコン論考(其1)	2	お知らせ	3	出版文化史逍遥—西から東—	7
				広告	8

パソコン外論考 (其1)

宇田川一彦 Udagawa Kazuhiko

◆時が過ぎ去っても/As time goes by

子在齊、聞韶、三月不知肉味、曰、不図為樂之至於斯也、

The Master heard the shao in Ch'i and for three months did not notice the taste of the meat he ate.

He said, I never dreamt that the joys of music could reach such heights.

(論語/述而・Confucius; The Analects/Book VII)

【超拙意訳；孔子が齊の国に滞在した時、韶（今風に言えばフルオーケストラ）を聴き、感激のあまり3か月の間、肉の味が分からなかった。そして、孔子曰、「音楽のすばらしさ」がここまで深く感動的なものとは思わなかった!と。】

音楽とパーソナルコンピューター¹⁾は似たようなものと言ってしまうと、いささか異論も反論もあるかと…。

が、もうやがて19年も前になるが、初めてパソコン

(今、お騒がせのパソコン本家林檎印のもの²⁾)に触れたときの感動は、3日3晩=6食(1日2食故)の味が分からないくらいのものでした。←過去完了形に注目。

ところが最近のパソコン界では、ほとんどが「窓いっぱい95」と「集積化電子屋³⁾」の世界となっています。元祖「林檎屋」もホンの何%という1桁の下の方で頑張っていますが、所詮は負け犬の…何とやらの感じ。ということで、パソコンにはあまり関心がなく、精力を水泳と若手「漫才=standup comedy」に注いでいました。

とは言うものの、未練がましく時に触れパソコンの動静を眺めていました。そして、何が筆者をして急速にパソコンへの関心を薄れさせていったのか!?

・「鼠」が好きでない=「窓いっぱい」系は、GUIと称して(graphical user interface)、このマウスを多用するのです。地球に虫眼鏡⁴⁾マークで「網を結ぶ探検家」のお出まし(起動)で今流行りのインターネット接続可能とか。←ケッ!! こんなチャチな絵文字で、何がGUIじゃい、と思うと腹が立って…。わけの分からん絵文字よりもキーボードからの入力の方が確実安全と、固くなに、かついまだに信奉しています。

・最新技術採用、高性能化/高機能化/超高速化と称した、CPUの変革。これによって、手持ちのパソコン

が陳腐化(強制的パソコンの deterioration)。←何となく車の買い換えを思い浮かべがちですが、パソコンのそれはちよっと違う気がします。車の場合は、ボディデザインが変わったとか、排気量とか、燃費、車がガタついたとか、床が抜けたとか(嘘でなく、友人のデザイナー愛用某系14年物GTのクラッチの床が腐食して抜けたんです)、また、色が気に入らないとか、金が残ったとか、愛人がRolls Royce Silver Shadow II だったと思うが? 欲しいってんでボンと買ったが、あれは自分で運転する車ではなく、chauffeurを備わなくてはいということで、Porscheにしたとか、諸々の事情で買い換えをします。他方、パソコンは、精々デザインが変わったといっても、デスクトップからタワー型になった程度で、(モニターも大型の20インチとか薄型の液晶15インチとか変化はありますが、車でいえばタイヤの径の大小か)、パーソナル使用としては、性能・機能にはあまり差を感じないものです。但し、CPUが32ビットのものであればという条件が付きまします。ただ、如何せん昔の(といっても3~4年前、だから余計に腹が立つが)パソコンを使用していると、OSやアプリケーションソフト(「窓いっぱい95」の上で動くもので、皆さんも使ってらっしゃる方も多いと思われる「丁度方式家の長男」、「連華でいちにいさん」とか「超ちびソフト家の優れモノ」⁴⁾等々)が、走らなくなるのが困った点です。車に譬れば、あなたの車は古いから、合う口径のプラグがない、エンジンオイルとかタイヤまでもが、供給されないのに等しいかも…。

・パソコンのCMが気に入らない。昔は、その筋の映画で人気を博し、寅亡き後の最後の「映画スター(残念! 煙草のCMには出ないという矜持は?)」のパソコン広告。通信(と思われる)の操作場面での台詞、「簡単じゃねえか」。思わずのけぞり、それはないぜ! Kenさん! パソコンの操作は、超簡単というわけではないのです。就中、あるソフト等の操作や習得には。

と、理由はまだ他にもありますが…。紙幅が尽きました。まあ、後ろを振り返っても多少益はありますが、現実を直視。ということで、次号以下で、パソコンの価格下方硬直性(なぜパソコンは高いのか)、泣かないための賢いパソコン購入法、CPUの変遷、戦々恐々ソフト業界関連図、これで十分ソフト考、なんだ! インターネット、うーん? パソコン通信、お気軽インターネット時代

の翻訳支援ソフト考、等々を考察（というと hard です
ので、out of question の意味で外論的に）してみたい
と意気込んでいますが…。乞御期待。

註記：

*1 以下、パソコンと略記。*2 当時の Apple 社のパソコン
は、\$2,000 弱（このドル価格は、現在もパソコンでの最多
価格帯）。ところが、日本では約80万円強。とにかくフルセ
ット＝パソコン本体＋カラーモニター＋ディスクドライブ2
台＝約160万円強＝車が1台というのが相場でした。*3 い
まやなく予も黙る、OS (operating system) の Windows
95＝Microsoft と CPU (central processing unit、パソコン
の心臓部ともいうべき中央演算処理装置。または、Micro
Processor) の巨人となった、Intel Corp.＝Integrated
Electronics 略称の2社。これを人は Wintel 王国といいま
す。*4 ソフトは勝手に推理されんことを。

著者略歴：

宇田川一彦 Udagawa Kazuhiko

学習院大学卒業、早稲田大学大学院経済研究科修士課程
修了。出版社を経てフリーのライター。エッセイ・ルポ
などパソコン関係の著述および編集で活躍中。趣味は、
かつては Audio、写真、スキューバ、茶道、現在は水
泳。主要著作としては、「コピーって?ゼロックスですか」
（技術評論社）「パソコンを128%使い切る法」「パソコン
入門」（日本経済新聞社）「コンピューターって」（朝日
新聞社）等。

うちの会社

プレントィスホール出版

当社の親会社、バイアコム (Viacom) は、映画部
門 (パラマウント映画など)、ネットワーク部門 (M
TVなど)、出版部門 (サイモン・アンド・シュースター)
を傘下におさめるアメリカで有数のメディア会社です。
多くの欧米のメディア産業と同様に買収・合併によっ
て大きくなった会社で、子会社である当社もその影響
を受けています。当社の「法的」な前身は1978年に設
立された「リージェンツ出版社」ですが、1987年の
「日本プレントィスホール」との合併を経て、1995年
に現在の社名「プレントィスホール出版」に改名しま
した。

当初は米国本社で出版された書籍の輸入促進・販売
に専念しておりました。ELT教材、大学教科書、専

門書、コンピュータ書、一般書など雑誌以外のすべて
の分野を網羅しています。一部の書籍 (ELT、大学
教科書、コンピュータ書など) は日本国内で在庫して
います。他方、数年前から日本独自の出版事業に進出
し、コンピュータ書 (主に翻訳書)、英語語学教材な
どを日本のニーズにあわせて自社で出版しています。
1997年度は新刊点数が100を越え、洋書部門と並んで
当社の重要な核の一つになっています。

出版事業の展開に伴い社員の半数以上は入社3年未
満で、ほとんどは日本の出版社出身です。日本の会社
の良い点と外資系の良い点をミックスしたような会社、
それが当社の理想です。

(小野直人)

総代理店のご案内

ナウカ株式会社

Tel. (03)3981-5261

Fax. (03)3981-5313

EBSCO Publishing (U. S. A.)

総代理店

全CD-ROM商品

EBSCOhost (U. S. A.)

総代理店

全オンライン・データベース商品

お知らせ

(株)極東書店の代表者が下記の通り変わりました。

(1997年8月1日付)

退任：代表取締役社長 内藤 勲

新任：代表取締役社長 菅野孝雄

文化厚生委員会だより

去る8月23日津久井湖畔においてフォーティラブの夏合宿が開催され20名の会員の皆様のご参加をえました。今回の報告は、初参加3名の中から東光堂書店の高山慎一さんの文章をもってかえさせていただきます。なお、次回の秋合宿は10月25日（土）に開催します。

「目指せ！！ヒンギス！！」

先日行われたJBIA ビアパーティ会場でふと見かけたチラシに書かれてあったこの一言に魅せられて、僕は今回のフォーティラブテニスに参加させてもらった。

「目指せ！！ヒンギス！！」

とは言っても、僕はテニスを殆どやった事がない！！のだ。しかし今回は僕の他にも初心者数が数人参加するそうだし、ベテランの方々は親切(?)に教えて下さるとの事だし、何より、幹事の一人は僕の上司、S氏（東光堂）なので、安心して参加の意思を固めた。

「目指せ！！ヒンギス！！」

さあ、いよいよ出発である。ヒンギスになるためには、気持ちから。という訳で、僕はベテランの方々に交って前日に開催地である神奈川県津久井湖に入り、来たるべき翌日に向け、鋭気を養った。ちなみにベテランの方々は必要以上に鋭気を養っていた。明日が心配であった…。

「目指せ！ヒンギス！」

そして迎えた23日（土）。ベテランの方々に交じり朝から鋭気を養った僕はイザ！コートへ！いくら初心者と言っても最悪ラケットには当たるだろう。とたかをくくっていた僕は早くも3分後、失意の中にいた。当たらない！！のである。そして5分後怖いくらい眩しい笑顔でテニスを楽しんでいるベテラン勢をヨソに既に僕はコートの外で、お姉さん達を眺めていた。失意の中…。

「目指せ。ヒンギス。」

そう言ってやさしく手を差し伸べてくれたのはフォーティラブテニス会長N氏。そこからはN氏の丁寧な指導のお蔭でまた急にテニスが好きになった。10分後、ラケットにボールが当たる。当たる。たまに。

この後は、熱血コーチT氏（OUP）、そして前出ダンディS氏達の御指導のもと、僕の他の初心者達は確実に上達していった。

「目指せ…。ヒンギス…。」

テニスは本当に面白い。（当たればネ。）と初心者でも思える1日であった。コーチ達に感謝しています。

「目指せ！ヒンギス？」

ところでヒンギスって誰？女性だったか？顔がパッと浮かばない。よし、次は「目指せ！！ブブカ！！」だ。

この次、参加するまでに、もう少し勉強しておきます。ありがとうございました。（剣道一直線）



「草木は語る」

島岡 丘

誰しも年を取ってくるとそれまで自分の辿ってきた人生は無駄ではなかったと思いたくなるものだが、それは結構なことだと思う。自分の体験はもっとも嘘偽りがなく、貴重なものだからである。過去のある時点では時間つぶしで無意味な仕事だと思っても、後になってそれが随分と自分の気持ちの支えにすらなっていることに気づくこともある。

ある時親しい友だちと飲みながら、談笑していたとき、「君の趣味は?」と尋ねられた。「仕事」と答えたくなかったが、それでは折角自分に関心を持ってくれている相手に失礼かもしれないので、「農作業だ」と答えてしまった。その友だちは趣味として園芸を手がけており、専門的知識が誰よりも豊富である。私は、単に実のなる木々や野菜を育てているだけであるが、その動機は私の中学生の時に遡る。実は、終戦の年、中学1年生だったが、4月に入学して一月ばかり経つと「援農作業」に1学年全員が行かされることになった。当時は今で言う「マインド・コントロール」に国全体がかかっている、強制的という感覚は全くなかった。それまでは土をいじったこともなければ馬を引いたこともなく、農作業には全く無知であった。

朝、6時に起きて徒歩で目的地に着いたらもう10時半にもなる遠い農家であった。それから援農作業を開始するのであるが、田んぼの雑草やひえ抜きは長時間腰を屈めているので、腰が痛くなる。炎天下で暑いものだから上半身裸になると、蛇が血を吸いに襲ってくる。畑作業も大変である。除草には馬を除草機につけ、引っ張らせるのであるが、馬は私の足をよく踏みつけた。「どけっ」と怒鳴っても「馬の耳に念仏」。帰りは家に着くともう暗くなっており、また明日のために勉強するひまはなく、ぐったりとなって翌朝まで熟睡するだけであった。

ただ、私に幸いしたのは、引率教官が英語の先生であり、必ず英語の教科書を持参するようにと言われた。それは途中の集合場所で、15分ばかり英語の音読を路傍で2列縦隊のまま、先生の後について繰り返すためである。先生は「戦争の相手国のことを知らずして何をか言はんや」という意気たけなわで、リズムカルに言えるよう一斉音読をするのである。What is this? It's a map. What is that? It's a flag… などのように。

戦争が終わって、六三制が施行されたため、英語の教師不足は深刻だった。前にも書いたように、平川唯一先生のラジオ英会話、「カムカムアワー」を聞かなければ、私の英語への道は閉ざされていたに違いない。

最近では、英語の重要性和日本人の英語力向上の必要性がよく話題とされるが、世の中は英語以外にも専門分野の知識・技能や幅広い国際的感覚などが必要であることは言うまでもない。

私が畑仕事をやってみてその中で様々なことが頭をよぎる。自然界は生存競争が行われていることを実感するのは特に芝生の手入れの時である。芝生の面積を広げようとするとうとうどうしても雑草とたたかわねばならない。雑草は時には自分の背丈よりも高くなっているのがある。今はブルドーザーでアッと言う間に根こそぎなぎ倒したり、あるいは農薬を使って枯らしてしまうこともあるが、私は機械も農薬も使わない。雑草を取るときは雨上がりの時を選ぶ。根から容易に引き抜くことができるからである。引き抜くにはある程度の力があるが、根深いよしとある種のよもぎなどを除けば大抵手の力で引き抜くことができる。ただ素手で行うと思わぬ怪我をすることがある。最近ではゴム製の厚めの手袋が手に入るのを、それを使えば安心である。

雑草を引き抜くとそこに新しい世界が展開する。雑草の根本のほうは日があたらなかったせいで、黒土が広がっている。上の方は雑草が密集していてもそれとは異なる世界があるというのは、言語学的には表面構造と深層とは異なることを象徴しているとも言えるのではと自問自答したりする。

自然界には無駄がない。引き抜いた雑草はしばらく放置すると枯れてしまうが、土をかけておくと腐食して翌年の木々の成長に役立つよい肥料となる。

庭木が歩くというと、根は固定しているのに絶対そのようなことはないという反論が聞こえてきそうである。私は実際に私のうちの庭で見たのでご披露しておこう。それはイチジクの木であった。日当たりがよくなかったので、イチジクはもっと日のあたる方に移動したかったようだ。そこで日があたるほうの葉をどんどん大きくし、その重みで葉が地面に触れるようになった。するとそこから新しく根が生え、もとあった根は枯れ始め、ついにイチジクはもとの位置から1mも南に動いたのである。森が広がっていく一因もこのような現象があるのではと思う。

この現象も人生への教訓を含むものとして受けとめたい。つまり、世の中には不動のものはなく、常に動いているのである。島でも大陸でも1年には何ミリかは動いているのであり、それが地震を各地で引き起こすこともある。人間の社会生活においても、絶対にこの人は自分を支持してくれると思っていても、何らかの理由で自分から離れてしまうことがあるということである。

芝生を広げるために、雑草を引き抜いたからといって安心はできない。既にきれいな芝生になっているように見えるところでもよく見ると小さな雑草が次々に生えているのがわかる。芝生を定期的に点検し、雑草を抜くようにしなければ芝生は雑草に負けてしまう。娘にも言うのであるが、友だちとのおつき合いもあまりご無沙汰するとちょうど芝生に雑草が生えてしまうように友情にヒビが入ることがある。心の通いを保つよう努力しなければならぬと自分の芝生管理の体験から話す。

人間が生きていくためには自然との共生が必要であることは言うまでもないが、食物を得るためには畠で野菜を栽培しなければならないし、それは雑草との戦いに勝つことを意味する。しかし、自然界の樹木は人間の生活にも不可欠であり、公園の木々や街路樹も減らさないようにしなければならない。現在はオゾン層の破壊という恐ろしい現象が進行中であることを耳にする。伐採率と成長率と植樹量を計算し、バランスを保つための世界的規模の協力が必要であるが、その点でも意志疎通と意見交換の手段として、英語の重要性は不可欠である。

このようなところに私が強い関心を持つようになったのは、中学校の時の援農作業が関係している。中学1、2年の時はあまり勉強する機会には恵まれなかったが、それはそれなりに無駄ではなかったようだ。当時、よく歩いたり、野外の労働をさせられたが、それは私自身、60台中ばでも腰痛にもならず、足腰が丈夫であることにつながっているようだ。テニスもよい運動で大好きであるが、畠で作物を育てる喜びには何にも変えがたい充実感がある。精神的なストレスも土の上に立つと、ストレスが土に吸収され爽快な気分になる。最後に草木に関してよく用いられる表現の例を掲げよう。

grass については、grassroots が「一般の人々」の意味で用いられる (cf. the ordinary people in an organization, rather than the leaders [Longman]; the ordinary people in a society or an organization, esp. a political party [CIDE])

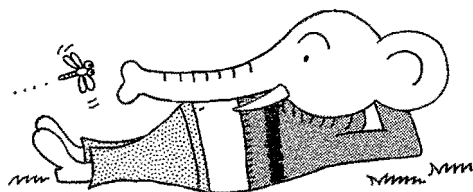
green はアイルランドの国色でもあり、ダブリンで見かけた市内を走るバスはすべて緑色で、草木を大事にする国であることを感じる。本年 OUP から出版された、OXFORD LEARNERS' S Wordfinder Dictionary には、色 (colour) について用例が豊富に掲載されている。pale~eyes, olive~, a green-brown colour (=khaki), emerald (green) など green に関する表現も多い。

tree に関しては、a family tree は「家系図」のこととよく用いられる。tree diagram は「樹形図」と訳しているが、Chomsky 以来、言語学でよく用いられるようになった。bark at a wrong tree は「関係ない木に向かって吠える」は「見当違いをしている」の意味で用いられる。don't see the wood for the tree は「木を見て森を見ない」は「部分的なところを見て、全体像を捉えていない」の意味でよく用いられる。

このように英語に草木に関する表現が多いのは Robin Hood の Sherwood Forest の物語や Hunting 文化などに象徴されるように、アングロサクソン族ももとは森と関係が深かったのではと想像される。日本に来る外国人教師や ALT も多くは都会ではなく、筑波など田園地方を好む傾向をもっているようだ。

人生航路は誰一人として同じではない。それぞれの人生を肯定的にとらえるということは、人生をより楽しくまたより長生きすることにつながる。ついでながら長生きの秘訣は次の7つの原則を守るとよいそうだ。①よく眠り、②早起きし、③腹7分目として大食せず、④よく歩き、⑤くよくよせず、⑥よく笑い、⑦適度にいそがしいこと (百歳まで生きた人たちは大体この原則を守っているようだ) 私も連載させていただき、適度のいそがしさを与えられていることは長寿につながるのかもしれない、と半ば期待し感謝したい。最後に読者の方々に一言。一坪でも耕して何かを栽培すると、いろいろなよい着想が生まれると思いますが、いかがでしょうか。

(茨城キリスト教大学教授)



英語辞書の歴史—ジョンソン・ウェブスター・OED—(11)

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆『オックスフォード英語大辞典』誕生への道

ヨーロッパ大陸では、18世紀末から19世紀初頭にかけて印欧語やゲルマン語に関する研究が台頭し、言語学の分野で新しい時代を迎えていた。イギリスにおいては、それから若干遅れて19世紀の30年代に入って、Benjamin Thorpe, John Mitchell Kemble, Joseph Bosworth などによる新しい言語学研究成果が現れるようになった。

そういう流れのなかで、イギリスでも1842年に「言語学会」(The Philological Society) が設立され、機関誌の発行などの活動が開始された。そして1854年にグリムの『ドイツ語辞典』の刊行が始まったことなどが刺激になって、言語学会においても新しい辞書の編纂の動きが生まれてきた。

1857年、言語学会はジョンソンの辞書を補訂する目的で委員会を発足させたが、委員の一人でウェストミンスターの主任司祭であったトレンチ (Richard Chenevix Trench 1807-86) が、学会に対して「わが国の英語辞書の欠陥について」という論文を発表した。この論文で彼が提示した基準は、OEDの性格を方向づける大きな要因になった。これを受けた言語学会はジョンソンなどの既成辞書を補完する程度のものではなく、全く新しい辞書を編纂することを決定し、トレンチ、ファーニヴァル (Frederik James Furnivall 1825-1910)、コールリッジ (Herbert Coleridge 1830-1861) の3名を編集責任者に指名し、発行もトリュブナー社と決まっていよいよ事業がスタートした。

1859年に「新辞書出版の提案」という趣意書を作って広く世界に向け協力を呼びかけ、辞書に収録する用例を収集するためのボランティアを募集した。これは、応募したボランティアに特定の本を与えて、その中から必要な用例を選定しカードにして送ってもらうというやりかたであった。こうして編纂が動きだしたが、最初の編集者コールリッジは、過労から31歳の若さで死亡した。後継者はファーニヴァルであったが、集まってくるカードの整理だけでも大変な作業で思うように編纂が進まず、計画の大幅遅延でトリュブナー社との契約も解消し、ま

た一度生まれたコンサイス版を先に出版するという代案もついえ去った。ファーニヴァル自身1864年に創立した“The Early English Text Society (EETS)”や1868年には「チョーサー協会」を設立するなど多忙を極めて新辞書に専念することが難しく、1874年の言語学会では実現はほとんど絶望であるという報告まで出される状態であった。この二つの協会は、用例カード収集の過程で、古英語(OE) 中英語(ME) の未刊文献の校合と刊行が必要という考えから創立され、事実ここで行われた事業はOEDの編纂に大きく寄与したのであった。

OEDとマレーは一体として私たちに記憶されているが、マレーがOEDの誕生に尽くした貢献はまことに偉大であった。一時挫折するかに見えた新辞書の発行計画は、1879年に彼が編纂を開始したことで一挙に始動した。マレー (Sir James Augustus Henry Murray 1837-1915) は小学校教育を受けただけで、独学でロンドン大学の学位を取得し、晩年にはオックスフォード、ケンブリッジを始め九つの大学から名誉学位を贈られ、「言語学会」会長を三度務めた学者であった。

さて、OEDとのかかわりであるが、彼が教師をしていたときにマクミラン社から辞書編集の提案が持ち込まれ、そのために言語学会が所有している新辞書のために集めた資料の利用を申し出た。この、マクミランの計画は廃案になったが、これがきっかけになって言語学会で再び新辞書編纂促進の気運が生まれマレーが編集者に指名され、出版もオックスフォード大学出版局が引き受けることになった。そして、上述のとおり、1879年に彼の自邸内の編集資料室で仕事を開始したのが事実上OED編纂事業の記念すべきスタートであった。

しかし、その後も編集作業は順調に進んだわけではなく、遅々とした進行にオックスフォード大学出版局も業を煮やし、たび重なる催促や出版計画の圧縮・変更などの圧力をかけてきた。こういう状況の中で、前編集者ファーニヴァルなど少数になった理解者の援助に支えられマレーは毅然として作業を進めた。そして、ようやく最初の出版にこぎつけて、1884年に第1分冊(A-Ant) が出版された。

ザ・ニュー・パルグレイヴ経済学と法辞典 全3巻

THE NEW PALGRAVE DICTIONARY OF ECONOMICS AND THE LAW 3 Vols.

Edited by **Peter Newman**,

Professor Emeritus of Economics, The Johns Hopkins University

1998年5月刊行予定 総ページ数 2,500 p.

(注文番号MBN: 9741897 / ISBN: 0-333-67667-X)

出版前特価 ('98年4月15日まで) 概価 ¥85,840

通常価 (上記以降) 概価 ¥101,850

市場の機能、所有権、金融規制など、その多くの部分が法学に関するものであるにもかかわらず、法的側面を重視してこなかった経済学と、民法、商法、独占禁止法、証券取引法、会社法など、その多くの部分が経済学的側面を有するものであるにもかかわらず、経済学の原則を軽視してきた法学とのあいだの対話を試みる辞典。

1987年刊行の *The New Palgrave: A Dictionary of Economics*、1992年刊行の *The New Palgrave: Dictionary of Money and Finance* のパルグレイブ2部作同様、世界の第一級の経済学者、法学者を寄稿者に招いて編集された、極めて質の高いレファレンスです。

<概要>

○400項目の新規書き下ろし論文 (各論文は平均5,000語前後)。

○ノーベル賞受賞者を含む第一級の経済学者、法学者340人が寄稿者として参加。

○各論文の末尾に詳細な文献案内、クロスレファレンス。

THE ADVISORY BOARD

Douglas G. Baird, *University of Chicago Law School* / **William Bishop**, *Lexecon, London* / **James M. Buchanan**, *George Mason University* / **Ronald H. Coase**, *University of Chicago Law School* / **Patricia M. Danzon**, *University of Pennsylvania* / **Erich Schanze**, *Philipps-Universität Marburg* / **Oliver D. Hart**, *Harvard University* / **Leo Herzel**, *Mayer, Brown and Platt, Chicago* / **Benjamin Klein**, *University of California at Los Angeles* / **Robert H. Mnookin**, *Harvard Law School* / **Ugo A. Mattei**, *Università di Trento and University of California* / **Roberta Romano**, *Yale Law School* / **Anthony I. Ogus**, *University of Manchester* / **J. Robert S. Prichard**, *University of Toronto* / **A.W. Brian Simpson**, *University of Michigan Law School* / **Robert Sugden**, *University of East Anglia* / **Viktor J. Vanberg**, *Albert-Lutwigs-Universität Freiburg* / **Michelle J. White**, *University of Michigan* / **Richard A. Epstein**, *University of Chicago Law School* / **Henry G. Manne**, *George Mason University* / **János Kornai**, *Harvard University and Collegium Budapest*.

(Macmillan, GBR)

※消費税は別途申し受けます。



日本総代理店

丸善
<http://www.maruzen.co.jp/>

【本社・日本橋店】〒103 東京都中央区日本橋2-3-10 ☎(03)3272-7211 振替: 00170-5-5

支店・営業所 東京(分館の水・有楽町・内幸町・浜松町・アークヒルズ・渋谷・府中・錦糸町・北千住・柏・取手・土浦・船橋)・千葉・八王子・大宮・新潟・札幌・仙台・盛岡・秋田・横浜・静岡・浜松・名古屋・津・岐阜・金沢・京都・大阪・神戸・姫路・岡山・松山・広島・福岡・長崎・鹿児島・沖縄・
ニュージャージー・ロンドン・シンガポール

1997年 9月

通巻第364号

洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03)3271-6901 FAX.(03)3271-6920

印刷所=藤本綜合印刷株式会社